

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-249190

(P2002-249190A)

(43) 公開日 平成14年9月3日 (2002.9.3)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームト ⁷ (参考)
B 6 5 D 85/57		B 6 5 D 85/57	C 3 E 0 3 6
E 0 5 B 65/00		E 0 5 B 65/00	G
G 1 1 B 23/03	6 0 1	G 1 1 B 23/03	6 0 1 C

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2001-47597 (P2001-47597)

(22) 出願日 平成13年2月23日 (2001.2.23)

(71) 出願人 392025238

株式会社サンエイ

大阪府東大阪市中野178番地

(72) 発明者 中筋 保

大阪府東大阪市今米1丁目19番28号

(74) 代理人 100077791

弁理士 中野 収二

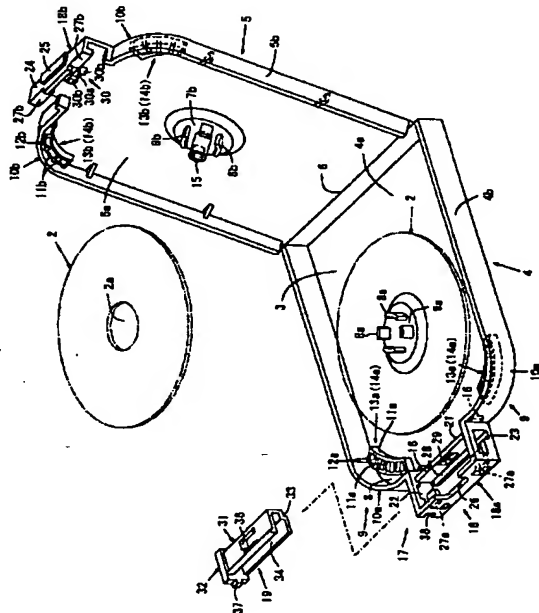
Fターム (参考) 3E036 AA08 FA02 FB10

(54) 【発明の名称】 ディスク用セキュリティケース

(57) 【要約】

【目的】 記録済みのディスクを収納した状態で展示される開閉自在な保護ケースであって、該ディスクを販売又はレンタル等のために店舗において展示するに際して、開蓋不能に施錠できるようにしたセキュリティケースを提供する。

【構成】 皿状のケース本体と、該ケース本体を開閉自在に施蓋する蓋体とを可撓性の合成樹脂により成形すると共に、保護ケースの側縁に位置してケース本体と蓋体を相互にヒンジ部を介して結合した構成とされ、保護ケースにおけるヒンジ部の反対側に位置する両肩部を円弧状に形成すると共に、両肩部の間に位置してケース本体と蓋体の相互を施錠可能に連結固定する施錠装置を設け、前記円弧状の両肩部を構成するケース本体の円弧部並びに蓋体の円弧部のそれぞれに補強リブから成る剛性部を形成した構成である。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 録音又は録画等の記録済みのディスク 2 を収納した状態で展示される保護ケース 1 であり、皿状のケース本体 4 と、該ケース本体を開閉自在に施蓋する蓋体 5 とを可撓性の合成樹脂により成形すると共に、保護ケース 1 の一側縁に位置してケース本体 4 と蓋体 5 を相互にヒンジ部 6 を介して結合した構成とされ、保護ケース 1 におけるヒンジ部 6 の反対側に位置する両肩部 9、9 を円弧状に形成すると共に、両肩部 9、9 の間に位置してケース本体 4 と蓋体 5 の相互を施錠可能に連結固定する施錠装置 17 を設けて成り、

前記円弧状の両肩部 9、9 を構成するケース本体 4 の円弧部 10 a、10 a 並びに蓋体 5 の円弧部 10 b、10 b のそれぞれに補強リブ 13 a、13 b から成る剛性部 14 a、14 b を形成して成ることを特徴とするディスク用セキュリティケース。

【請求項 2】 録音又は録画等の記録済みのディスク 2 を収納した状態で展示される保護ケース 1 であり、皿状のケース本体 4 と、該ケース本体を開閉自在に施蓋する蓋体 5 とを可撓性の合成樹脂により成形すると共に、保護ケース 1 の一側縁に位置してケース本体 4 と蓋体 5 を相互にヒンジ部 6 を介して結合した構成とされ、保護ケース 1 におけるヒンジ部 6 の反対側に位置する両肩部 9、9 の間に位置してケース本体 4 と蓋体 5 の相互を施錠可能に連結固定する施錠装置 17 を設けて成り、前記ケース本体 4 と蓋体 5 の少なくとも一方の内面にディスク 2 の中心孔 2 a の周縁に沿う円周上に配列された爪片 8 a を設けると共に、ケース本体 4 と蓋体 5 の他方の内面から前記爪片 8 a が配列された円周の内部に向けて入れ子状に臨む柱状片 15 を設けて成ることを特徴とするディスク用セキュリティケース。

【請求項 3】 録音又は録画等の記録済みのディスク 2 を収納した状態で展示される保護ケース 1 であり、ディスク収納室 3 を形成する皿状のケース本体 4 と、該ケース本体を開閉自在に施蓋する蓋体 5 とを合成樹脂により成形すると共に、保護ケース 1 の一側縁に位置してケース本体 4 と蓋体 5 を相互にヒンジ部 6 を介して結合した構成とされ、

保護ケース 1 におけるヒンジ部 6 の反対側に位置する側縁にケース本体 4 と蓋体 5 の相互を施錠可能に連結固定する施錠装置 17 を設けて成り、

前記施錠装置 17 は、ケース本体 4 に設けられた箱状部 18 a と、蓋体 5 に設けられ前記箱状部に嵌脱自在に嵌入される舌片 18 b とから構成されたハウジング 18 と、前記箱状部 18 a と舌片 18 b を相互に連結固定状態となるように施錠するロック手段 19 と、該ロック手段を解錠するキー手段 20 とから成り、

前記ハウジング 18 は、一端に施錠口 22 を開設すると共に、他端に解錠口 23 を開設し、舌片 18 b を箱状部 18 a に嵌入したときハウジング 18 の内部で相互に重

ね合わせられる施錠片 27 a、27 b を箱状部と舌片に設け、ハウジング 18 の内部に被係止部 29、30 を形成して成り、

前記ロック手段 19 は、施錠口 22 からハウジング 18 に挿入したとき前記重ね合わせられた施錠片 27 a、27 b を分離不能に挟持するロック溝 34 を備えると共に、前記被係止部 29、30 に係止して該ロック手段 19 を施錠口 22 から抜き出し不能に固定する係止爪 35、36 を備えて成り、

10 前記キー手段 20 は、解錠口 23 からハウジング 18 に挿入したとき、前記係止爪 35、36 を被係止部 29、30 から離脱せしめる解錠片 41、42 を備えて成ることを特徴とするディスク用セキュリティケース。

【請求項 4】 箱状部 18 a がハウジング 18 をディスク収納室 3 から区画せしめる区画壁 21 を備えており、該区画壁 21 に被係止部 29 を設けて成ることを特徴とする請求項 3 に記載のディスク用セキュリティケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

20 【発明の属する技術分野】本発明は、CD等のミュージックディスクやDVD等のビデオディスクのような記録済みのディスクを収納した状態で展示される開閉自在な保護ケースであって、該ディスクを販売又はレンタル等のために店舗において展示するに際して、開蓋不能に施錠できるようにしたセキュリティケースに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、記録済みのディスクを店舗において販売又はレンタル等に供するに際しては、ディスクを保護ケースに収納し、更に、該保護ケースを展示用の外ケースに収容した状態で、陳列棚に起立載置せしめられる。

【0003】店舗における展示に際しては、従来より、盗難防止のための種々の対策が講じられている。一般的には外ケースにより施錠可能なセキュリティケースを構成する 경우가多いが、ディスクの記録内容を表示するジャケットシートを外ケースに貼付する場合には、内ケースとされる保護ケースによりセキュリティケースを構成するのが良い。

【0004】

40 【発明が解決しようとする課題】然しながら、保護ケースは、ケース本体を蓋体により開閉自在に施蓋した構成であるため、ケース本体と蓋体の間の僅かな隙間からでも薄いディスクを抜き出して窃取することが可能であり、セキュリティケースを構成するに際しては、この点に留意しなければならない。特に、レンタル用の場合、ディスクに傷がつかないように保護ケースを比較的柔軟な可撓性のある合成樹脂素材で成形する場合上、ケースを無理に変形させると容易に隙間を形成することが可能であり、盗難を許す原因となる。

50 【0005】更に、保護ケースに施錠装置を設けるに際

しては、店員等が施錠操作と解錠操作を簡単かつ迅速に行えることが必要であり、その反面、不正な来店者が針金その他の治具を用いて解錠することを防止できる完全な施錠機能を具備せしめることが必要である。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記課題を解決したディスク用セキュリティケースを提供するものであり、その第一の手段として構成したところは、録音又は録画等の記録済みのディスクを収納した状態で展示される保護ケースであり、皿状のケース本体と、該ケース本体を開閉自在に施蓋する蓋体とを可撓性の合成樹脂により成形すると共に、保護ケースの一侧縁に位置してケース本体と蓋体を相互にヒンジ部を介して結合した構成とされ、保護ケースにおけるヒンジ部の反対側に位置する両肩部を円弧状に形成すると共に、両肩部の間に位置してケース本体と蓋体の相互を施錠可能に連結固定する施錠装置を設けて成り、前記円弧状の両肩部を構成するケース本体の円弧部並びに蓋体の円弧部のそれぞれに補強リブから成る剛性部を形成して成る点にある。

【0007】また、本発明が第二の手段として構成したところは、録音又は録画等の記録済みのディスクを収納した状態で展示される保護ケースであり、皿状のケース本体と、該ケース本体を開閉自在に施蓋する蓋体とを可撓性の合成樹脂により成形すると共に、保護ケースの一侧縁に位置してケース本体と蓋体を相互にヒンジ部を介して結合した構成とされ、保護ケースにおけるヒンジ部の反対側に位置する両肩部の間に位置してケース本体と蓋体の相互を施錠可能に連結固定する施錠装置を設けて成り、前記ケース本体と蓋体の少なくとも一方の内面にディスクの中心孔の周縁に沿う円周上に配列された爪片を設けると共に、ケース本体と蓋体の他方の内面から前記爪片が配列された円周の内部に向けて入れ子状に臨む柱状片を設けて成る点にある。

【0008】更に、本発明が第三の手段として構成したところは、録音又は録画等の記録済みのディスクを収納した状態で展示される保護ケースであり、ディスク収納室を形成する皿状のケース本体と、該ケース本体を開閉自在に施蓋する蓋体とを合成樹脂により成形すると共に、保護ケースの一侧縁に位置してケース本体と蓋体を相互にヒンジ部を介して結合した構成とされ、保護ケースにおけるヒンジ部の反対側に位置する側縁にケース本体と蓋体の相互を施錠可能に連結固定する施錠装置を設けて成り、前記施錠装置は、ケース本体に設けられた箱状部と、蓋体に設けられ前記箱状部に嵌脱自在に嵌入される舌片とから構成されたハウジングと、前記箱状部と舌片を相互に連結固定状態となるように施錠するロック手段と、該ロック手段を解錠するキー手段とから成り、前記ハウジングは、一端に施錠口を開設すると共に、他端に解錠口を開設し、舌片を箱状部に嵌入したときハウジングの内部で相互に重ね合わせられる施錠片を箱状部

と舌片に設け、ハウジングの内部に被係止部を形成して成り、前記ロック手段は、施錠口からハウジングに挿入したとき前記重ね合わせられた施錠片を分離不能に挟持するロック溝を備えると共に、前記被係止部に係止して該ロック手段を施錠口から抜き出し不能に固定する係止爪を備えて成り、前記キー手段は、解錠口からハウジングに挿入したとき、前記係止爪を被係止部から離脱せしめる解錠片を備えて成る点にある。

【0009】前記第三の手段において、箱状部がハウジングをディスク収納室から区画せしめる区画壁を備え、該区画壁に被係止部を設けることが好ましい。

【0010】

【発明の実施の形態】以下図面に基ついて本発明の好ましい実施形態を詳述する。

【0011】図1及び図2に示すように、保護ケース1は、ディスク2を収納するための収納室3を形成するケース本体4と、該ケース本体の収納室を被うように開閉自在に施蓋する蓋体5とから構成され、保護ケースの一侧縁に位置してケース本体4と蓋体5を相互にヒンジ部6を介して結合しており、比較的柔軟な可撓性の合成樹脂により一体成形されている。

【0012】ケース本体4は、底壁4aの周囲に側壁4bを起立せしめた比較的浅い皿状の形態とされ、底壁4aの概ね中央部から内側に向けて膨隆するほぼ円形の支持部7aを形成し、該支持部7aに複数の爪片8aを立設している。間隔をあけて配置された複数の爪片8aは、ディスク2の中心孔2aの周縁に沿う円周上に配列されており、ディスク2の中心部を支持部7aに支持せしめるに際して、爪片8aが中心孔2aに嵌入状態で挿通されると共に中心孔2aの周縁を保持する。

【0013】保護ケース1は、ヒンジ部6を設けた側縁の反対側に位置する側縁の両端に円弧状の肩部9、9を形成する。即ち、両肩部9、9は、角張ったコーナを有せず、アール状に形成されている。このため、ケース本体4の底壁4a及び側壁4bは、それぞれ両肩部に位置して円弧部10aを形成する。更に、一對の円弧部10aに近接する底壁4aには、該円弧に概ね沿って円弧状に延びる少なくとも2本の平行リブ11a、11aと、該平行リブを相互に連結する複数の連結リブ12aとから成る補強リブ13aが一体に成形されており、該補強リブ13aにより円弧部10aを弾性変形困難とする剛性部14aを構成している。尚、円弧部10aの内側と補強リブ13aの間には隙間Sが形成されている。

【0014】蓋体5は、ケース本体4の収納室3を被う蓋壁5aの周縁のうち、ヒンジ部6に臨む側縁を除く周囲に嵌合壁5bを起立せしめた概ね皿状の形態とされ、蓋壁5aの概ね中央部から内側に向けて膨隆するほぼ円形の支持部7bを形成し、該支持部7bに複数の爪片8bを立設している。間隔をあけて配置された複数の爪片8bは、ディスク2の中心孔2aの周縁に沿う円周上に

配列されている。従って、ディスク2は、上述のようにケース本体4の支持部7aに支持せしめた状態から蓋体5を施蓋することにより保護ケース1に収納しても良いが、反対に、ディスク2の中心部を蓋体5の支持部7bに支持せしめ、爪片8bにより中心孔2aの周縁を保持し、この状態から蓋体5によりケース本体4を施蓋せしめることによりディスク2を保護ケース1に収納せしめることができる。尚、施蓋状態において、蓋体5の嵌合壁5bがケース本体4の側壁4bに内嵌される。

【0015】更に、蓋体5における支持部7bの中心部には柱状片15が立設されており、該柱状片15は爪片8bよりも背が高いものに形成されている。従って、ケース本体4を蓋体5により施蓋した状態で、図2(B)に示すように、柱状片15がケース本体4の爪片8aが配列された円周の内部に向けて入れ子状に臨み、好ましくは柱状片15の先端がケース本体4の支持部7aに当接する。

【0016】ケース本体4の円弧部10aと同様に、蓋体5の蓋壁5a及び嵌合壁5bは、それぞれ両肩部に位置して円弧部10bを形成し、一対の円弧部10bに近接する蓋壁5aには、該円弧に概ね沿って円弧状に延びる少なくとも2本の平行リブ11b、11bと、該平行リブを相互に連結する複数の連結リブ12bとから成る補強リブ13bが一体に形成されており、該補強リブ13bにより円弧部10aを弾性変形困難とする剛性部14bを構成している。因みに、施蓋状態において、蓋体5の円弧部10bがケース本体4の隙間Sに内嵌される。尚、図1に示すように、蓋体5の円弧部10bを嵌合状態で保持する保持片16をケース本体4の底壁4aに設けることが好ましい。

【0017】保護ケース1は、両肩部9、9の間に位置してケース本体4と蓋体5の相互を施錠可能に連結固定する施錠装置17を設けている。施錠装置17は、ケース本体4に設けられた箱状部18aと蓋体5に設けられた舌片18bを合掌せしめることにより構成されるハウジング18と、前記箱状部18aと舌片18bを相互に連結固定状態となるように施錠するロック手段19と、該ロック手段を解錠するキー手段20とから成る。

【0018】図1に示すように、ハウジング17を構成する箱状部18aは、区画壁21を介して収納室3から区画されると共に、ケース本体4の両肩部9、9の間に位置して収納室3から突出せしめられた概ね矩形皿状の形態に形成され、一端に施錠口22を開設すると共に、他端に解錠口23を開設している。これに対して、舌片18bは、蓋体5を施蓋したとき、箱状部18aを被うと共に、該舌片18bの先端縁に沿って断面はばし形に折曲され箱状部18aに嵌入される嵌入片24を備え、該嵌入片24の外側面に隆起せしめた摘み片25を箱状部18aの切欠部26に嵌入せしめる。

【0019】箱状部18aと舌片18bは、舌片を箱状

部に嵌入したときハウジング18の内部で相互に重ね合わせられる施錠片27a、27bをそれぞれに設けている。図例の場合、一対の施錠片27a、27aが箱状部18aの側壁から内部に突出して形成され、一対の施錠片27b、27bが舌片18bの嵌入片24から断面はばし形に折曲形成されている。

【0020】ハウジング18の内部において区画壁21に沿う段状レール28が施錠口22と解錠口23の間に延びるように形成されている。区画壁21には第一の被係止部29が設けられ、区画壁21に開設された矩形孔を構成する。舌片18bの内面には第二の被係止部30が設けられ、舌片18bの内面を凹入する凹部30aと、該凹部を挟んで配置された山形状の凸部30b、30bを構成する。

【0021】ロック手段19は、施錠口22からハウジング18の内部に挿入される脚部31と、脚部の尾端の頭部32とを備え、脚部31の長手方向に沿って段状レール28に案内される段溝33を形成している。また、脚部31は断面を溝型状に形成されており、施錠口22から挿入されたとき、ハウジング18の内部において相互に重ね合わせられた施錠片27a、27bを分離不能に挟持するロック溝34を構成する。更に、脚部31には、該脚部の表面から弾性的に突出する第一の係止爪35（図4参照）と第二の係止爪36を設けており、ロック手段19をハウジング18の内部に完全に挿入した状態で、第一の係止爪35が第一の被係止部29に係止すると共に、第二の係止爪36が第二の被係止部30に係止することにより、ロック手段19を抜き出し不能に固定する。尚、この状態で、頭部32の小突起37が施錠口22に近傍する小溝38に嵌入せしめられる。

【0022】キー手段20は、図2に示すように、解錠口23からハウジング18の内部に挿入される脚部39と、脚部の尾端の頭部40とを備える。脚部39は、断面はばし形に形成され、解錠口23からの挿入により、区画壁21に沿って進入し第一の被係止部29に到達する第一の解錠片41と、舌片18bの内面に沿って進入し第二の被係止部30に到達する第二の解錠片42とを構成する。

【0023】以上の構成の保護ケース1によれば、ケース本体4の支持部7aに爪片8aを介して、又は、蓋体5の支持部7bに爪片8bを介して、ディスク2の中心孔2aを保持せしめた状態で、ケース本体4を蓋体5により施蓋すると、図2に示すようにディスク2が保護ケース1に収納される。このとき、箱状部18aに舌片18bが嵌入されることにより施錠装置17のハウジング18を形成するので、施錠口22からロック手段19を挿入すると、箱状部18aと舌片18bが相互に連結固定状態となるように施錠される。

【0024】そこで、ディスク2を収納した保護ケース1は、図3に示すように外ケース43に挿入され、店舗

の陳列棚等に起立配置することにより展示される。外ケース4は、一端を開口せしめた箱型に形成され、ハウジング18を挿入方向に向けて保護ケース1を外ケース4に挿入したとき、保護ケース1の両肩部9、9の近傍部を支持する支持片44、44を内部に固設しており、挿入支持された保護ケース1のヒンジ部6が設けられた側の側縁近傍部を外ケース4の開口から突出せしめ、これにより外ケース4に保護ケース1が収納状態にあることを外部に視認せしめる。外ケース4は、外表面に透明シート45を重ね合わせると共に、溶着46等により固着

【0025】ところで、店舗での来店客は、外ケース43を手にとって保護ケース1を自由に取出すことはできるが、保護ケース1はロック手段19により施錠装置17をロックされているので、ディスク2を保護ケース1から取出すことはできない。上述のように保護ケース1は、比較的柔軟な可撓性のある合成樹脂素材で形成されており、ディスク2に傷がつかないように配慮されている。そこで、例えば、保護ケース1の全体形状を矩形状に形成し、施錠装置17の両側に位置する両肩部に角張ったコーナ部分を設けると、施錠装置17から離れたコーナ部分において、ケース本体4と蓋体5の合わせ面を不正にコジ開けて押し広げ、隙間からディスク2を抜き取り窃取することが可能になる。これに対して、本発明によれば、先ず第一に、保護ケース1の両肩部に角張ったコーナ部分を設けておらず、両肩部9、9に円弧状の円弧部10a、10bを形成しているため、不正にコジ開けることを困難としている。また、第二に、円弧状とした形状に加えて、円弧部10a、10bに補強リブ13a、13bから成る剛性部14a、14bを形成しているため、コジ開けによる隙間の形成はほとんど不可能である。更に、第三に、図2(B)に示すように、ディスク2の中心孔2aを保持する一方の支持部7aの爪片8aに対して、他方の支持部7bから柱状片15を入れ子状に臨ましめているので、柱状片15が爪片8aから抜き出るまで移動されない限り、ディスク2の中心孔2aを柱状片15から離脱せしめることができず、その結果、仮にケース本体4と蓋体5の間に隙間ができてディスク2を抜き取ることは不可能である。尚、柱状片15は、ディスク2の中心孔2aが爪片8a又は8bから離脱しても、ディスク2が保護ケース1の内部で自由に遊動することを防止できるという効果もある。

【0026】施錠装置18の施錠作用を図4に示している。図4(A-1)及び(A-2)は、施錠開始状態を示しており、舌片18bを箱状部18aに嵌入せしめることにより形成されたハウジング18の内部において、施錠片27a、27aに施錠片27b、27bが重ね合わされた状態にあり、ロック手段19を施錠口22から

図示矢印方向に挿入すると、ロック手段19は、段溝33を段状レール28に案内されつつ挿入され、ロック溝34により施錠片27a、27a及び施錠片27b、27bを重ね合わせ状態のまま挟持する。ロック手段19を完全に挿入し終えると、図4(A-3)及び(A-4)に示すように、第一の係止爪35が第一の被係止部29に係止すると共に、第二の係止爪36が第二の被係止部30に係止するので、ロック手段19が抜き出し不能に固定される。このとき、ロック手段19の頭部32が施錠口22に嵌入され、頭部32の小突起37が施錠口22に近傍する小溝38に嵌入される。このようにロック手段19は、第一の係止爪35と第一の被係止部29、第二の係止爪36と第二の被係止部30というような2箇所において抜き出し不能に固定されるので、来店客がロック手段19を不正に抜き出すことは極めて困難である。この点に関して、保護ケース1は比較的柔軟な可撓性の合成樹脂を素材としているため、画鋲その他の尖端を有する針を刺突することが可能であり、これにより係止爪を被係止部から離反せしめることも予想されるが、本発明によれば、少なくとも第一の係止爪35と第一の被係止部29がハウジング18の内部の区画壁21の部分に設けられているので、例えば舌片18bに針を刺突せしめるようなことが行われても、第一の係止爪35を第一の被係止部29から離脱せしめることは不可能である。

【0027】一方、施錠装置18の解錠作用は、図4(A-5)及び(A-6)に示す通りであり、解錠口23からキー手段20の脚部39を図示矢印のように挿入すると、第一の解錠片41が区画壁21に沿って進入し第一の被係止部29に到達することにより第一の係止爪35を弾性変形せしめ第一の被係止部29から後退せしめる。同時に、第二の解錠片42が舌片18bの内面に沿って進入し第二の被係止部30に到達することにより第二の係止爪36を弾性変形せしめ第二の被係止部30から後退せしめる。キー手段20を更に押し込むと、脚部39の先端(第一の解錠片41及び第二の解錠片42の先端)がロック手段19における第一の係止爪35及び第二の係止爪30の爪端に当接し、ロック手段19を施錠口22から押し出すので、以後はロック手段19の頭部32を把持してハウジング18から抜き出せば良い。

【0028】このように、店舗においてディスク2を収納した保護ケース1を展示するに際しては、ロック手段19を施錠口22からハウジング18に挿入するというワンタッチで施錠を完了することができ、作業性が極めて良好である。また、ディスク2を顧客に対して貸出又は販売に供する場合は、キー手段20を解錠口23からハウジング18に挿入すると共にロック手段19を抜き取るというほぼワンタッチで解錠を完了し、開閉自在とされた保護ケースと共にディスク2を顧客に引き渡せば

良く、やはり作業性が極めて良好である。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の１実施形態に係る保護ケースにおいて蓋体を開放した状態を示す斜視図である。

【図２】本発明の１実施形態に係る保護ケースにおいて蓋体を施蓋した状態を示しており、（Ａ）は斜視図、（Ｂ）はＢ－Ｂ線拡大断面図である。

【図３】本発明の１実施形態に係る保護ケースを外ケースに収容せしめた状態を示す斜視図である。

【図４】施錠装置の作用を示しており、（Ａ－１）は施錠開始状態を側方から見た縦断面図、（Ａ－２）は施錠開始状態を平面方向から見た横断面図、（Ａ－３）は施錠完了状態を側方から見た縦断面図、（Ａ－４）は施錠完了状態を平面方向から見た横断面図、（Ａ－５）は解錠中途状態を側方から見た縦断面図、（Ａ－６）は解錠中途状態を平面方向から見た横断面図である。

【符号の説明】

- | | |
|-----|-------|
| 1 | 保護ケース |
| 2 | ディスク |
| 2 a | 中心孔 |
| 3 | 収納室 |
| 4 | ケース本体 |
| 5 | 蓋体 |
| 6 | ヒンジ部 |

* 8 a、8 b 爪片

9 肩部

10a、10b 円弧部

13a、13b 補強リブ

14 a、14 b 剛性部

15 柱状片

17 施錠装置

18 ハウジング

18a 箱状部

10 18b 舌片

19 ロック手段

20 丰一手段

21 区画壁

22 施錠口

23 解錠□

27 a、27 b 施錠片

29 第一の被係止部

30 第二の被係止部

34 ロック

20 35 第一の係止爪

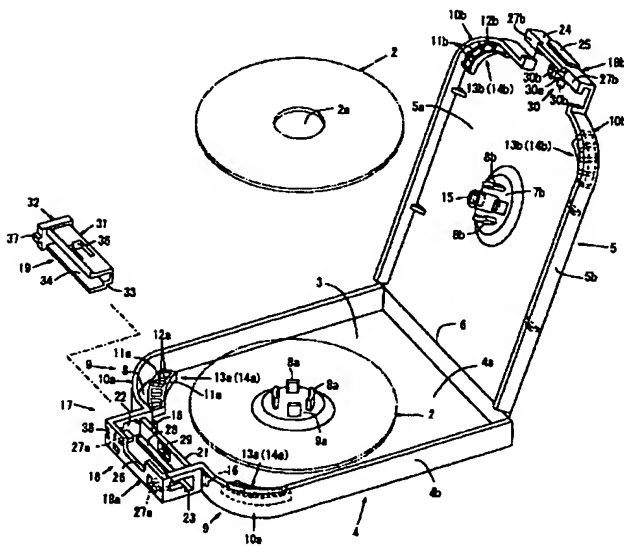
36 第二の係止爪

41 第一の解錠片

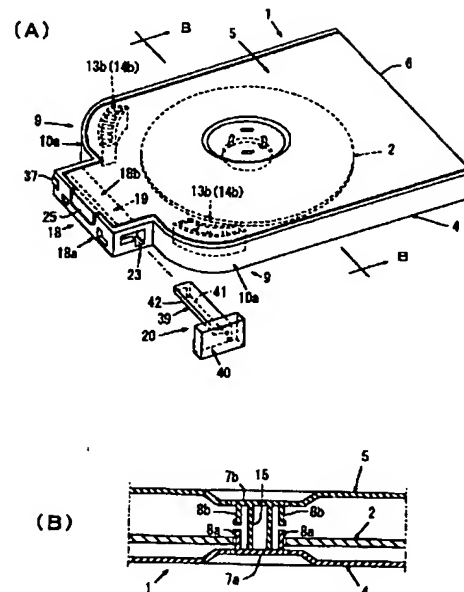
42 第二の解錠片

*

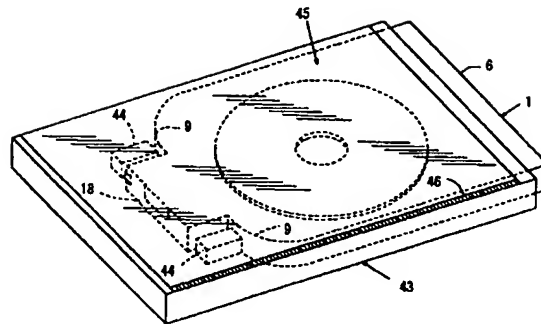
【圖 1】



【圖2】



【圖3】



【図4】

